

# 教育経済建設常任委員会視察報告書

須 田 瑞 穂

## ○埼玉県鴻巣市

### 学力向上の取組み及びICTの効果的な活用について

#### 【所 見】

これまで、鴻巣市の取組としては社会的背景を鑑み、新しい時代で生きていく子供たちのために、教育の在り方を変化させていくことが必要との考えから、令和元年9月に鴻巣市学校教育情報化推進計画を策定した。小中学校の授業での具体的な内容としては、ICT機器を使うことが目的ではなく、子供達がICT機器を文房具のように使える姿を目指し、GIGAスクール構想を最大限活用し、鴻巣市独自の施策を盛り込んだ教育情報化推進を実現し、全ては鴻巣市で育つ子供たちの未来のために、「先端技術を活用したICT環境整備」、「学習形態の変革」、「人財の育成」、「子供と向き合う時間の創出」の4つの柱を設定し、平成30年度から計画の検討を開始し、具体的なスケジュールを定めスピード感をもってこれからの鴻巣市を担う子供たちのために様々な教育改革を行っている。

所管の鴻巣市教育委員会事務局教育部教育総務課からの視察事項の説明後、質疑応答となり、本市の教育経済建設常任委員メンバーから、コロナ禍における教育について、特にICTについては、教育ICT基盤の刷新に至った具体的な経緯や、クラウド化にあたり教職員をはじめ関係者との連携をどのように図ったのか。また、クラウド化に係る費用、システムを運用する中で得られた効果や、明らかになった課題について等、多くの質疑応答が交わされた。

鴻巣市の教育現場の取組の視察を行い、足利市の教育現場と比較して、本市はICTを含め全てのことに大変遅れをとっているのではないかとというのが正直な感想である。本市教育委員会、教育委員会事務局は、すべてにおいての教育の新規事業については、良い言い方をすれば大変慎重であるが、悪い言い方をすれば、積極的に好んでやろうとしない。また、責任は誰がとるのか明確ではないというのが残念ながら本市教育委員会、教育委員会事務局の現状ではないかと思う。

鴻巣市では、教職員出身の方ではなく、市長部局の職員出身の方が教

育長として活躍されているとのことであった。本市も以前そのような人事を一時的に行っていた時代もあったが、改めてそのような人事を本市も検討する必要があるのではないかと強く感じた。本市には小中学校の統廃合を含め様々なことを議論している足利市学校教育環境審議会という組織があるが、そこでの答申が上がったら検討したい等と、本会議で教育長が様々な各議員の教育に対する質問に答弁しているようでは足利市の教育はよくなると思う。そのような待ちの議論を行っている間に、子供たちは日々成長し、何も教育改革行われないうちに卒業してしまう児童、生徒がいるということをもっと真摯に本市教育委員会、教育委員会事務局に所属する教職員、職員の方々には重く受け止めてもらいたい。

## ○神奈川県小田原市

### まちのコイン「おだちん」事業について

#### 【所見】

小田原市SDGs体感事業「おだちん」とは、人と人をつなげるためのコミュニティポイントのことである。この事業は神奈川県の「つながりポイント事業」と連携して小田原市で展開しているもので、神奈川県では、小田原市の事業展開、鎌倉市の実証実験を踏まえて、令和2年度以降に神奈川県内の複数の自治体において事業を展開しているものである。

令和2年2月からプレスタートした「おだちん事業」は、令和4年6月現在で、スポットと呼ばれる店舗等の参加が116者、参加利用者数も4,210人に到達しているという。また、事業の内容については各種メディア、ホームページなどでの周知以上に、SNS利用者を中心とした情報の広まりが強く、内容を賛同した方々からの登録依頼が相次いでいるとのことである。

「おだちん」事業とはシンプルにいうと、スマートフォンでやりとりをするコインで、実際のお金のように使うことはできないが、代わりにコインをもらうとき、または使うときに、そのまちならではの人・まち等でうれしい体験ができるものである。具体的な例で説明すると、飲食店にテイクアウトのメニューを注文し、その際に利用者がエコバックを持参したら、50コインを獲得、または、ボランティアのごみ拾いに参加したら300コイン獲得、更には、畑の収穫を手伝ったら500コイン獲得

となり、獲得したコインの使用方法は、集めたコインで様々な体験をすることができる仕組みとなっている。例えば、300 コインを使って訳あり野菜を登録店から分けてもらえることや、400 コインを使って登録してある猫カフェ店の猫に癒してもらおう等、毎日の生活にまちのコイン「おだちん」事業を導入すると、ご近所同士の顔なじみが増えたり、まちのことを深く知るようになったり等、お互いに良い部分を引き出し合うような相乗効果が期待できるような事業だと思った。

視察内容説明後、まちのコイン「おだちん」事業について、導入に至った具体的な経緯、導入するにあたり生じた課題、またその課題をどのように解決したのか、スマートフォンのアプリを使った電子地域通貨システムの具体的な内容、システムに係る費用（イニシャルコスト及びランニングコスト）等について様々な意見交換がされた。

このまちのコイン「おだちん事業」は、地域を好きになっていただく、または地域を深く知る、もしくは地域の絆を深めるきっかけづくりになる事業であり、また、SDGsを自分ごとにするための体験事例がたくさんできる事業だとも感じた。また、お金では買えない体験事例や、お店でものを売る、または買うだけはできない体験をすることができることも、この事業の素晴らしい点の一つだと思う。今後の課題として、スポットと呼ばれる店舗等の参加者を探すことが、運営側とすれば大変との説明があった。確かに、このシステムをすぐに理解し参加する店舗経営者の方々はすでに登録しているわけであり、新規で説明し理解していただくまでには時間がかかると思うが、引き続きこの事業を広めて頂いて、さらに地域の絆やコミュニティーを深めていただきたいと思います。